

非暴力直接行動

NO.
181
'91
8/8

WAR RESISTERS INTERNATIONAL-INYAMA 1部10部(カバン)

戦争抵抗者インターナショナル(WRI) 時 倉・大山市鶴岡町666・水田ふう・向井孝④

ぼんぼんのふん

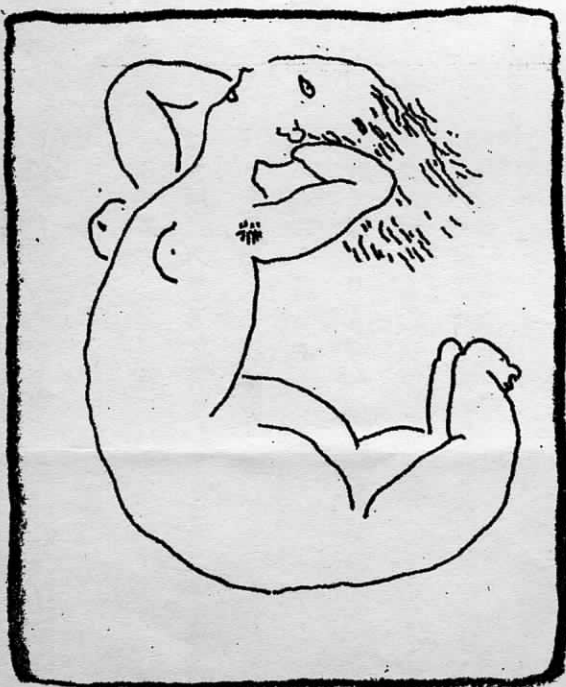
ー 3・28 断電行動とテント村始末 ー

F & K ou

1 3・28 のよびかけ

■ テント村のことを考えるまでに3・28行動のことにふれときたい。

● うん、何かなんでも原義に反対する女グループが呼びかけた「3・28」の日に、この行動はひとりひとりの主体と責任において実施されるものです。一人一人の責任と行動によって状況をつくりだして下さいと書いてあったやろ。あれ読んだとき、わたしは、これちよっとちがうなアと思ってずっとひっかかってたんや。



特集・戦争をテント村の意味

■ たしかにそれが気になるんやけど、ぼくはまず、3・28行動の提起は「タイミン」が一月ほどずれてるけど、美浜二号炉の重大事故をチャンスとしてとらえて、ここ数年次第に反原発運動を転換するきっかけにしようとする大きな賭けや、戦略的に重要な意味をもつ工工提起やと思った。

しかも小教非力の女グループがそれこそ思いついて、はじめて自他に大きな責任を背負うよびかけをするんやからスゴイ、と。

それでK子さんに逢ったとき、カ一にそのことをいうた。それから「一人一人の責任と行動」という以上、まずカ一に「私はこうします」ということを女グループがみんなに、はっきり示さんと呼びかけにならん、と。

● するとおいちゃん、3・28に88年の伊方原発調整実験のときの「高松行動」みたいなのを、ちよっとは期待してたの。

■ いや、もしそのような「期待」が女グループにあって、その呼びかけに動かされて集ってくる人たちが多少でもあるとしたら、エライこっちゃ。一人一人の責任と行動によって状況をふくり出して下さい、なんて言うようなこと

だけでは済ませられへん。あの「高松」の高揚をつくりだした「状況」とは何だったのかいを、しっかり把握したうえで、「女グループ」はこうする、でない。

● 結局は、おいちゃん、3・28にいかへんかった……

■ うん、ぼくはこのごろ女グループとすっかり疎遠になつてしまつて、もうぼくの出る幕はないし、それ以上に意見を伝えられへんかったし……

そやけど、ぼくはるり子はんとは20余年、ひろ子さんたちとも10年以上、ほとんどいっしょにやってきたんやから、女グループについてはまるでぼくの分身みたいな感情がいまもあるんや。

それで気になるのは、もう10年もまえにやり尽したことを、相変わらず女グループが固持してがんばっている感じがして、「毎回工夫してほんのちよっぴり、やり方を変えるいうことを忘れたんかしな」とつい口出したくなる。とくに「3・28」の提起では、それを感じたなア。

● 私は女グループの呼びかけを読んですぐあの高松行動のよびかけ「この行動は参加者一人一人の意志と責任において実施されるものです」を思い出したんや。そやけど、あのときみたいな新鮮な衝動はもうないし、それどころ

ろかむしろ異和感をおぼえてしま、て……

2 現地不在のよせもの行動

■ 小原さんらのあの時の呼びかけは、それまでの運動のあり方、行動提起のやり方を根、からひっくりかえすもんじゃない。

つまり結果として、意図するとうとにかかわらず「動員」とか「組織」とか「統一行動」で、参加者が一せいに動くといういままでの「やり方」をきっぱり否定し、自分の意志と責任で動くことで、行動を何よりも「自己解放」として意味するものに転換することやった。

● それは、また私らがこの10月末、言うたり追求してきたことや。

■ しかし、ぼくらの場合は、それを伝えただけ、まわりから湧上って、一風かわったグループだけの路線になつてしまい、まったく影響がなかった。

● 高松行動では、それかなんの抵抗もなく参加者全員にうけとめられ、ぱあっと花が咲いたように、実現した人はいくらでやろか。

■ そんなんや。いまからおもたらせこのところをあいま

いにしたままやったから、もうその半日後の「泊」の呼びかけでは、小原さんたちが「泊とめたらみなとまる」とばかり呼びかけたにもかかわらず、「泊とまらず運動とまる」になつていく……

● 「高松行動」が高揚した理由というのは、何といつてもその前に展開された広瀬さんの精力的な全国講演行脚。「危険な話」「まだまにあうなら」のベストセラー的大流行。そこへ小原さんたちが「エライこっちゃ」と日本中を駆けまわつてのオルグ。あつというまに集めた百万人署名。そのことで伊方の調整実験問題がパニック的にひろがって、一月二十六日には高松に千名が集り、

四国電力本社との

交渉ではフトン

まで持込んで

泊り込み。そ

して二月十一

二日の「原発

さらば記念日」

四千人のデモシスト

レーション。ーと



みでくると大きな波のうねりが幾重にもかさなってたかまり盛り上っていくような、あのときの「状況」がつくられてこそといえる。

■ うん、たしかにそれが大きな理由や。けどそれだけでは「高松行動」は規模が大きくなっても、いままでとまるでちがって、「行動が何よりも自己解放」を意味する」ものにはならへんかったやろ。

● そうやな。それは小原さんらの「参加者の意志と責任において」の強い主張があったからや。

■ そやから何というてもカーにあげなアカンのは、あのとき高松に集ってきたのは、よそもんばかりで、しかもよそもんに対する現地としての受入れがなかった「その意味」ということになる。

3 よそもの高松行動

● しかし現地の受入れがないということは、カー呼びかけの責任母体がない、ということだけでもマイナスになるのがふつうやろ。

■ ところが、いままでの考え方でそのマイナスが、



高松ではかえってプラスになった。つまりよそもんの小原さんかよそもんのみんなに呼びかけて対等のよそもん同士がわあっと同じ平場に集ったわけや。

● それで、よそものが一人一人自分のおもいのままに動いても、受入れ母体がないゆえに誰からも文句いわれへん。自分のことに責任さえもてば、みんな好き勝手にやればよい、という開放状況がたまたま生れた。

■ これまでは、現地へ出かけたからその受入れ責任母体に世話してもらう代りに、なんとなく、どこからか指図が下りてきて、その範囲内で動くということではなかった。また自分のおもいのままに動く、なんてことは考えてもみなかった。

● 高松行動が結果として、伊方の調整実験をやめさせることができた、いわば敗けたのに、かえって運動が大きく元気づいたのは、そこに集った一人一人の、はじめての経験、自分の意志と責任でやる行動のおもしろさ、「自己解放」のよろこびがあったからや。

まるで勝ったような気分の高松を、高松からみんながそれぞれの地方へ持ちかえって、それを「うたやおどりと

して全国に伝えひろめた、ということが次の東京行動では主催者も予想しなかった二万人もの集会になった。

■ 行動というものが、行動そのものとして、勝ち敗けを超える大きな意味をもつというのを「高松行動」は、具体的に実証したんや。

● 勝ち敗けを超える大きな意味とは、行動するなかで獲得した解放感、自己解放やね。

■ 行動は獲得目標の達成如何にかかわらず、まず自己解放を生み出すものでなければ意味をもたへん、ということや。「高松」が運動の新しい方向を提起し、一きよにその潮流をつくり出せたのは、自分の意志と責任においておもしろいままに動くということを買徹し、いままでの運動のやり方との折衷や現在をも断乎拒否した小原さんらの、いささかアクの強い強硬な主張があったからや。

4 泊行動のばらばら

● ところがそのあと、東京・四月、富山・金沢（能登）六月、松江（島根）七月、札幌（泊）八月とその高揚の余波がみるみる尻すばみになっていったのは？

■ それ「高松」で経験した行動のおもしろさ、楽しさ、

こたえられん「解放感」をこんどもと、みんなが期待して集ってきたのに、そこは「高松」とちがって、どうもなんか調子が合えへん、どこかで動かされてる、という感じのまま、だんだんいまままで通りの路線に戻っていったからやろ。

● でも、「うたやおどりの高松スタイル」は、一ぺんに全国へひろがっていったで。

■ 「高松」から引ついたのは、結局その表面的な「スタイル」だけやったんや。

つまり、「参加者の意志と責任」が本当に意味する「自己解放」が、うわべの現象「うたやおどりや唱曲」に短絡して理解されてしまった。

● わたしらも経験したのとやけど、はじめてやり出したうたやおどりは、ものすごく新鮮やし「自己発散」になる。けどそれだけのものやったら、すぐマンネリで形骸化してしまう。

■ その一方、ずうっと高

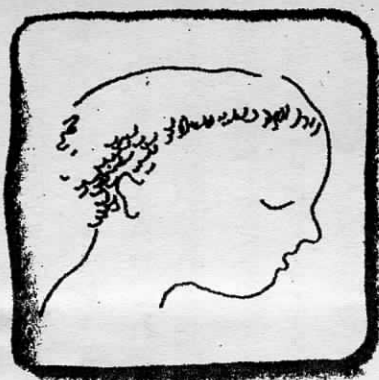


松路線を押し通そうとした小原さんらがどうなっていたかは、半日後の「泊」でほとんどみえてくる。

●「高松」のあとの小原さんらは、次の決戦場を半日後の「泊」とねらいを定めて、大キャンペーンをやり出した。在北海道のグループも、それぞれが「泊」着工阻止に立上った。それが、労働、市民運動、小原さんらが代表する全国よそのグループ三者三様にうごくことになって、ばらばらのまま、事前の意気込みの割にはそれほど盛りあがらずに終わったというこやろ。

■ それにもうすこしつけ加えると、札幌の北海道電力本社前に「高松方式」を持込んだ小原グループは、全体のなかではもう少数派として孤立するだけやった。

「自分の意志と責任で」という主張は、小原グループだけで独自行動を固めるという形で浮上り、「解放感」とは無縁のセフト路線になっていくもんだ。



「高松」を期待してあつま、たよそもんたちは、三者三様のうごきの渦中にまきこまれて、その期待した分だけ失望するしかなかった。

それ以降、いくつかの浮城をくりかえしながら、とくに都市の反原発運動は、行動にあらたな解放感を見出すことなく下降沈没の途を辿ってきた……

5 3.28にあうわれに丑のぼる

● 大阪の「3・28」では、「泊行動」の「ばらばら」ということが、もっと始末の悪いばらになつてあらわれた、と思うわ。

■ あのととき、26日から小原さんら大分グループは独自に関電本社前に坐りこみをつづけてたやろ。

● 女グループの呼びかけで、わたしは28日午前10時中え島公園野音に行ったんやけど、エースこれだけ、と思わず云うてしもたほど。わざわざ遠くから来る人にくらべて大阪近辺の人の数が少く、あわせて百人すこしぐらい。

ひる頃、デモをして関電へいくと、玄關前に大分の小原さんグループ（10人足らず）が、^{自分}名前を染めぬいた黒の揃いのハッピを着て、異様にどなりうたいあどっている。小

原さんらのやり方を強く打出したそれに、もう圧倒されて
とても一しよにはついていかれへん。で裏口の方へまわ
ると、そこは四国今治からきた奥村悦夫さんたちが、やはり
26日から坐り込みをつづけてるんやけど、やっぱり表から
避難してきたような人たちが、マイクでアピールしたり、
うたったり、たたずんだりしている。こっちの方はいたっ
て静か。わたしはなんとなく手もちぶさたで、自分の居場
所がみつからない。

■ 三時ごろには、「原莞いらん大阪労働者の会」のデモ
が数百人まで合流したんやろ

● 合流というよりみんな見物人よりしくウロウロと、表
へいったりウラへきたりで時間がたつて、だんだん散って
いってそれで終り。

結局、女グループは、一応の雑務的世話はしたけど、「
私はこう考える、私はこうするんや」という、「自分
をばっきり出すことがでけへんまま、女グループ自身をも
ふくめて、集ったみんなを、現場に連れていって放り出し
ただけになってしまった。

■ さっきふう子さんが、3・28を「泊」よりももっと始
末のわるい「ばらばら」というたのは？

● まず「大阪労働者の会」の別々のデモ。闇電を闇表
の小原さんグループ、裏口の奥村さんたち、そして女グル
ープ組の四つが、遠くからみると「一しよのようなかたち
をつくつてる」だけのばらばら。

それからもうひとつ、ともかく3・28は全国にもよびか
けた「大行動」のつもりなのに、かんじんの近辺大阪周辺
グループがほとんどこなかったということが、加わる。

（これいろいろ話をきいて判ってきたことやけど、美浜
二号事故の直後、みんなが闇電におしかけて、徹夜交渉な
どやったときのいきさつーいわば話し合いが大家団交がし
こりとなっておつと尾をひいていた。）

そして、一番しまつにわるいことには、「こじれ」から
3・28行動を黙殺した人たちの一部に、「一しよのかたち
をつくつてただけ」でしかなかった3・28を（例えば小原
一派、あるいは女グループ一派というふうにな）一括してし
まつて、たとえば小原さんらの過激ぶりを言外に非難して
全体に及ぼすような空気を醸成し、大阪の運動のなかに、
「あの人たちがわたし」という二つの区分別の、無形の
断絶をつくつてしまったこと……。

6 ぼくはぼくとテント村

■ ぼくはその「ぼくはぼく」というのが、単に「泊」や「3・28」だけのことやなく、いま決断待たせている運動の根本にある問題から、状況として出てきてるもんやと思うねん。

「テント村」で「しんぶん」を出す役をぼくが賣って出たんも、大ササにいうとその一事にかかわってる。

● おいちゃんはじめは「ぼく」の出る場やない」というてたやろ。

■ 3・28は見送ってしもたし、そのあと残ってすわり込みが続いてるときいて、エーまだやってるんかぐらいのことやった。

● わたし大阪に行った時、ときたまテント村をのぞいたんやけど、奥村さんとかもたちと、あと一二人ぐらいがテントの中にボソツとしてて、話しかけると答えるけど、積極的に対応する人というふうがあれへん。

女グループが送ってきたふうには、テント村の応援にきてくださーいと言っている。なにやら気になるし、まあ一度行って見ようと遠くからきた人なんか困ったやろ。

■ Aさんから「行っても何していいかわからんし、かつ

てにすぎないようにして、てゆうかんじやし、ほまらあんだらもかつてにすぎにやって！」と思って帰ってきたーというはなしを、ぼくもきいた。

● 「3・28」が終ってもまだ、坐り込みがつづく。小原グループが帰っても奥村さん一家は居すわって、4月9日にとうとう奥電夏敷の敷地内から強制排除されて、奥村さん逮捕拘留三日。

■ ところがそれがかえって元気付けになって、こんどは奥電が周囲にめぐらせた本格的フェンスと対峙する「テント村」へとなっていく。

● そんなつながりやから、私はテント村になって、3・28行動のつづきという感じで見てたし、女グループも3・28の責任上、ぼくとけんようなものがあった、とりあえず「世話せなアカン」ということやったんやろ。へそやから「一しよにやる」というところまでにはならなかった。内幕をきくと、女グループいうたかて動くのは数人やから、だんだんくたびれて、いつまでつづくんか、もうやめてほしい、というのが本音や、たらしい。

■ ぼくも「3・28」のつづきのつもりですつとみてたけど、



テント村に行き出してから、これは3・28のつづきとはまるでちがう。奥村さんがきわめて個人的なおもいからやり出したもんや。それをまえて、テント村へきてる何人かの人たちも、みんなそれぞれ個人のおもいで、そのおもいを奥村さんに加えてるのや」と思うようになった。

● つまり、3・28につづくものが、いつのまにか質のちがう奥村さんらになっているのに、わたしは気付かんかった、ということやね。

■ というて奥村さんにしても、へあのアジアスワニー争議の支援で、家族ぐるみ生活道具まで自分の車につみこんで「泊り込む」という経験があつて、それが方法的に大きく影響してるにちがいないけど、はじめからある程度の成算や見通しがあつたわけではなく、そのときどきの行きあたりばったりで「こうなつてしまった」ということやつた。

たとえば、テント村がつくられるにしても、奥電敷地から排除されたたん、まるで村峙するような道路をへたてた三角形の30坪ほどの緑地帯が、おあつたえのように見つかるといふ偶然性、はじめ一人用の小さな組立てテント二つ三つだったのが、たまたまMちゃんが割竹を組んで丸い屋根の10畳ほどのパオを工夫して一日で建て、それに透明

のビニールシートをかぶせたら、夜も三井ビルや街灯の光が入ってきて、電気なんかいらん。

へこのパオが出来たという意味は大きい。その意味で奥村さんがMちゃんとアジアスワニーで知りあったという意味も大きい。そしてパオはテント村のシンボルになつたし、これが三月もつづくテント村の物質的土台になつたわけやから。

そして、こんなことがテント村の経過のなかにいくつもあつて、運動というもののつくり方なり方について、とくに「ネットワーク」の意味について考えさせられた。

7 個人的ネットワーク

● 「主体性をもった個人の自立」という命題やけど、自分をふりかえつてもわかるように、自分がおもいつめた、これということについてはそうでも、いつも何にでも主体性をもって取り組むという人はそうあらんやろ。まして、他人から「さあ自分でこの状況を切りひらいて下さい」と言われても、そんなもんではへんよ。で、あんたは？とときいて、その人のやり方をみて考えるのが奥の山や。そ



の「あんたは？」に答えられん呼びかけは無責任や。

■ かりに「状況」がさし迫ってて、いても立ってもおれんというのやったら、「実はどうしたらよいか私にもわからへん。エエ考えありませんか。一しよに考えてもらえませんか」とざくばらんというしかない。

● 「3・28」の呼びかけが、ま・そんなふう中途半端や、たから、そのつづきのテント村も同じで、応援にきてくださいというふう出すけど、受け入れ態勢もないままやろ。こんども「状況」を自分で切りひらいてくれ！ゆう精神やま、いのがわたしのはじめの印象で、気にはなるんやけど、いじわるな気分にもなってきた。

■ うーん。そのへんがややこしいねんま。テント村の核は「奥村さん」個人や。奥村さんがおらんかったらテント村はまかつたやろ。

● 「3・28」のつづきとは、はじめからは、きりとちがうわけや。

■ 個人というても、その奥村さんの周辺に、奥村さんのおもいを支える家族や、水俣の平太郎一家、そして週三回以上テント村を訪ねる常連たち10人ぐらい。(その後ほくが一人加わったけど、それ以上にふえなかった)がいてこ

その奥村さん個人やけど、この関係はみんな「個人」やねん。

● 個人やうても、どんなつながりがあったんやろ。

■ 「組織」とか「仕組み」とかいうのとは無縁なふだんはまるでみえない個人的「ネットワーク」というもんやろ。

それが、この個人的というのがまた強いんや。展望や、計画や作戦や獲得目標や、意味づけなんてのはまるでアレヘン。組織決定みたいなのは、テント村なんてところではとてもでけへんの、いろんなことがあつさり進んでいく。

● そこが旧い「組織」と新しい「ネットワーク」のちがいやま。

■ ぼくらのみてきた運動と、まるで位相がちがうんや。個人のおもいのつながりで、しかも気楽にさりげないんやから。

8 趣味と運動

● ちよっと泊めていわれて、ほとんど留守の大阪の13階の部屋に水俣のじゅんだち子供と大人の四・五人がすうと寝とまりしてた時、「いつまで」と聞くと、「さあ、原

笑とめるまで「なんて言うたもんなあ。」

しかし、こちらが管理人から何度も「えたいの知れんもんを無断で泊めるな」と注意されてるし、原装が止まるまでわたしの3階が占拠されることにみんなのこいさ、とあわてたがま。

■ 4月8日とおもうんやけど、ぼくが高知へいく途中、大阪に一泊したとき、じゅんやあとうと、テント村のことをちよっ、と話したんや。で、訪ねてくる人には、まずこちらから声をかけること。身内やなじみだけの馴れ合いばなしで済ますのでなく、夕めしどきにはその場に未合せた人を交えて、ミーティングを毎日5分でも10分でも定例とすること。日誌に毎日みんなが一筆その日のことを書いて、それを壁に貼ってでもせめて10日に一どぐらい、半ぺらでも「ニュース」を全国へ送ること。など提案したんやけど、提案したもののがやる以外、どうにもならへんいう感



じやった。

「運動してるんやない」いうことが耳に残った。

● わたしもテント村のせいたとき、水俣の「おとう」に「テント村がまだ続いてるの誰も知ってえへんで、せめてニュースぐらい出して知らすいうことせんと」というたら、「ぼくなんか半分趣味でやってるから……ひとに知らせて、来てくれ」いうほどの中味でやってないしや……と。そお云われてしもたら二の句がなかったけど……

そらわたしも「運動は道楽やねん」「趣味でやってまんねん」という言い方をようするし、実際そういうことでもあうけど、その上での「趣味の運動」ということまんや。

■ 「趣味や」とわざわざいうのは、「そやから人に運動的なものをあしつけるつもりはない」ということと、もう一面の「わたしのやること放つて」という反語の意味もまじってる。 ● 「これはあんたら一人一人が問題にせまアカンことやねんで」というふくみもある……

■ たしかに「趣味」は、本来自分だけのもんやし、まず何より自分にとっての「意味」なんやから、これほど「主体性」のある「自立的」な行為はない。趣味やからこそできる。趣味やたら誰の助けもかりずしんどいこともやれる

わけや。

● ま、それはそれでエエ。けど例えば「いつまで」って
聞くところ「原裝がとまるまで」が答やろ。そしたら、原裝が
自分ひとりのおもいだけでとめられるわけないねんから、
どうしてもまわりの人にも一しよに……いうことが出てく
るやん。

つまり、ある部分では自分の趣味をどおしても「運動化」
するという問題がさけられへん。

■ 「自立」とか「主体性」とか、それからちよつと「飛躍
やけど」、「解放感」とか「趣味」というのは、みんま「恣
意的個人の自由と運動」ということで同根共通の問題や。

しかし「趣味や」という主張が、ハ、「個を抑圧する」「悪
しき運動集団」への否定として出てくるのはよう判るけど、
「ひとりよがり」や「逃げ」や「他人の排除」や、それら
の言い訳に使われるだけや。たら、無意味というほかない。
● うーん。趣味と運動の關係いうのはむずかしい。わた
しなんか、そのときどきであつちへいきこつちへいき、ど
つちへも徹しきれへん。いうのがほんまのところや。

9 信仰と教団、テント村と運動

■ テント村でハリストヤつてるとき、奥村さんの横にば
くもちよつと坐って話をしたんやけど、その話題が「個人
と運動との關係」からつながって、「信仰と教団」の問題に
なつた。

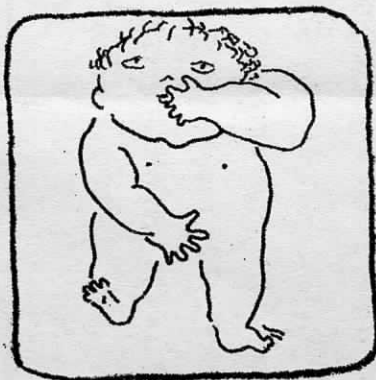
奥村さんは天理教の家に生れて、教団に疑問を感じて一
時期当されてたんやそうや。

信仰だけなら個人の問題や。その信仰をひとに伝えたり
ひろめようとして、説教が生まれ、布教がはじまり、教団が
つくられる。ところが、その教団がこんどは逆の教団↓教
会↓信徒の流れで動き出し、個人の信仰のかたちを規制し
てくる。

そんなはずしをしながら、ああ教団にあたるのが運動や
ないかと思ひあたつた。

● で、おいちゃんはどう
う解決したらエエと思ふ
の？

■ ぼくは信仰と教団と
の両での矛盾・相克は、
常に「個人の信仰へ」
初期の教団のすがたへ」



と戻る方向でくりかえし繰り返すしかないのところが、ぐら
いしか答えられへん。

●「運動」も「教団」と同じで、それを繰り返すには、いつ
も「個人」に戻って考えるしかない、ということやね。

■たとえば「テント村」をどうする、という問いに対してで
も、まずテント村にかかわる一人一人が、それぞれに「自
分はどうするか」やねん。自分に返って考えたら、どんな
難問も大てい解き口がみつかる。そのうえでの全般的な考
慮まんや。

●テント村への批判の一つに、「テント村は、個人的な
営為で、運動にとってはあまり意味がない」というような
声が大阪周辺であったやろ。またおいちゃんが「テント村
しんぶん4号%」でー

■関電ビルが象徴する巨大な、見えない機構に対峙して
まるでたった一匹のアリが象の群にむかうような、途方も
ないしんどくむなく手応えのないこのテント村の
いとなみと書いてたけど、それでテント村は個人の営為
やったの、運動やったの。

■「テント村しんぶん6号%」にちよつとふれたー

④見逃しもなく、いつまでつづけるのか。⑤テント村

で何か獲得できるのか。⑥テント村の持続にどんな意義が
あるのかーそれにしてモテント村は果して運動といえるの
か、という批判に対して、そのまえにばくは「4号%」
ー「喜し込みの意味」の小事で

■喜し込みは、生活の全部、一切合財の日常、つまり、
食事や睡眠や排泄やゴミ処理など、もっとも日常生活的な
営為までも武器化して、それが陣いになつてゐる。■「テ
ント村は、いつのまにかふと気付くと、まるで新しい運動
のスタイルを創り出し、実践してゐた」■そしてその上で
さらに、

■テント村を運動化しないかぎり、たとえ持続しても意
味を失うだろう」とかいたのをみてもうたら判るはずや。
●運動が運動でないかなんてことは、そもそもナンセン
スな批判やな。

■テント村は、いろんな点で古い運動概念をはみだした
「新しい運動」なんや。

10 テント村と新しい運動、七つの特徴

■「テント村が新しい運動や」というとき、新しい運動
とは何かをおきらかにすることが必須になるやうう。

「テント村くんぶんろ号」に書いてる小文をここで抄出するけど、ここにあげた「新しい運動の七つの特徴」は、そのままテント村にあてはまることに、ばく自身がきながらびっくりしたことや。

× × ×
 ① 新・旧運動の特徴を一言でいえば旧(A)の「統一と団結」性(又は組織志向性)に対し、新(B)の「自由適合性」(又は個的ネットワーク志向性)である。

さらにいえば、④の「運動の半段性」「利害志向」に対し、③の「運動の自己表現性」「価値志向」である。また④の「社会変革志向」に対し、③の「自己変革志向」である。

ここで⑥の新しい運動の特徴をもつすこし省察してみよう。

1. Bは何よりも「個人」の自主・自律・自己決定性が、運動の出発点であること。
2. だから当然、自己表現・自己表出つまり、運動は自己解放そのものとしてある。
3. そのことー自己表現・自己表出・自己解放ーが、まず自分にとっての運動の意味である。結果としての有効性は

つまり勝敗は、時には主要な目的でなくなる。

4. 運動は、組織的なー垂直的、水平的役割分業、分担指揮・命令・統制・規律を拒否する。組織にかわる個人ネットワークによる小教グループの自由連合志向する。

5. 運動の主体は、例えば「労働者階級」といった既成の社会的分類では全く区分できない。しいて云えば「個人」とくにいままで自己主張を奪われ、差別されてきたマイノリティに属するひとびとーたとえば「おんな」である。

6. 運動は個人の環境権、生存権、生活権を侵害する社会構造的、国家機構的介入に対する原理的本質的かつ単純明快な拒否申立ての「斗争」であることによって、反国家的・反企業的・反政治的・反文明的志向を固くもっている。

7. それゆえに運動は、地域局所にとどまるのではなく、その趣旨の普遍性一般性において全国的でグローバルな、みえないネットワークでつながっているものである。Bー次号につづくー





▼5月11日(日) 伊那へ。なだいなださんの講演会。牧師さん・信大の学生たち、手書きの協力して実現したもの。アナキズムといわずに、なださんの話にはアナキズムそのものや、た。感激。(なださんの「TV君の伝記」に権威と権力をさうそく読んでみた。これがまたすごいアナキズムや)

▼14日(水) 大阪へ。かたむりの会。▼15日(木) テント村ユキ。▼16日(金) 奈良の吉田智弥さんを訪ねる。智弥さんはこの(向)二度も入院したとのこと。一つは肝石。七転八倒の苦しみやけど。最近ばかりは石をとりだすというようなことはせず、電致をあてて中の石だけを粉砕するという。なんとこの技術は潜水艦の撃沈用に開発されたものやと。奈良ホテルでお昼ごちそうになって。大山へ。

▼18日(土) 向井さん美奈の交流会へ。▼19日 向井さんそのまま大阪へ。▼21日(火) 大阪へ。南大での池田さんの授業聴講。ドストエフスキーの「二重人格」。▼22日 テント村パブリックに寄って終電で大山へ。▼26日(日) 京都へ。がらんどうによはれ死刑のはなしを、石原さん森さんと。ここの小ぢな集り方が気楽でいい。お昼もよばれて交通費までもらった。テント村に寄って。最終で大山へ。

▼6月1日(土) 三重の長島へ。日方ヒロコさんに誘われて。長良川原での「薪能」というものを観に。千々千々入れたりタイコやつアミに合せて体にリズムつけて動かしたりしてみたらけっこう楽しめ

た。▼3日(月) 大阪へ。加島宏弁護士事務所に直行。テント村しんぶんの印刷を手伝って、それを持って雨の中をテント村へ。タックマン。そのうち一人二人とふえたんで放送作業バトンタッチ。アおいちゃん久しぶりにあべのデパイ。▼8日(土) 名古屋での「地域シンポジウム」に。金沢から井沢さんくるというのでちよ、てのそく。井沢さん大山で三泊。9日は向井さんも久しぶりに帰ってきたのでしやべってうれしそうやった。▼11日(火) 大阪へ。池田さん授業のあと、夜かたむり例会へ。10時すぎに階に着くと、木田くんと坂やんがテント村の名本を整理中。別に奥村さん大介もいて、向井さんと話し込んでいます。▼21日 奥村さんらのハリスト用の自装束に着替う。夜中三時までかかる。▼23日(日) 大阪へ。テント村大運動会。明治のころ、集会や示威を禁止された平民社の石川三四郎らは「運動会」という名目で集ったらしい。「尾行まき秘剣ゲーム」で全員がとつぜん大阪市役所玄関にあらわれ、レビュウの演習みたいなフィナーレで、奥村さんのハリスト宣言を飾ったのはおもしろかった。ちよっぴり工夫したらこんなおもしろい行動ができるというこれ以上ないエエ見本や。(じいおせむ見てほしい。)

この日、テント村しんぶんの紙つづてに「さえわれて」と20代の頃の仲間鈴木美奈が中学生の息子(ラマーズ法で産むというのでわたしもいっしょに立ちあそびソールレといっしょに呼吸しよから産んだや)をつれて埼玉の山奥からわざわざきてくれた。▼27日 午前10時、奥村さん5日間のハリスト終ア。テント村解散宣言。自主徹底作業開始。▼28日夜 テント村自主徹底作業終了。市はその夜から夜間作業でテ

ント村あとに植樹し掃きしてしまつた。▼29日 13階でテント村新聞の号送集の会合。(丸尾の御女からお重のま入れ)13人。朝2時までの作業。

▼6月30日(月) 奥村さん帰郷。水俣のじゅんたちが居残る。▲7月1日 新聞部の黒川が出てきたので話していたら、ウレもいわせず横濱のいちちゃんとおニヤニコの二人を連帯—との連絡。一泊で終校。
—フー—

メモ記

★「ばらばらのゆくと」曰、テント村の「総校」といつたものではなく、テント村の始終を通して、いま反原発発運動が当面する運動状況と、その肉體の食卓を明らかにできたというつもりで、ぶろろさんとあきだしたものの。30日のことやそのまのこのやうで、とうとう上下のつぎになつてしまつた。次号は月末までに出します。

★自分をむりやり押し出すようにして、今月6日美浜の民家でひろく交流会にでかけたのは、若狭湾周辺の現地から、「新地がじりじり進行悪化していく。にもかかわらず運動は行き詰まつており、どうすることもできない。助けてほしい」という声の、ばくにこつては今までに見たことがない率直な訴えがきこれたからだ。★しかし交流会はやはりいつものようなくちがう。収獲はまていた名古屋グループが、そのご美浜町へビラ入れを熱心にやり出したことばじりが、ばくはそこで、大介

さんなど同行の、テント村の奥村さんにはじめて出あった。★そして9日、奥村さんらのバンに同乗して大阪へいす。その夜から7月1日大山人帰りのついで、5日間、ばくの大坂暮らしとテント村がいかにまじつた。★「なんでもまたわづく」と聞かれたら、「このままでは何となく立ち消えになる。そのまえに、ばくだけがそこでやれることがある(かきしれない)というのに、贈を見送つてしまつてよいのか」という。何となくかえしに、おもいにせきてられて—というしかない。またテント村がその存在だけで意味をもつてきている状況のなかで、いま何よりも必要としているのは、テント村の存在をあらわにし、ひろげ伝達する「情報」である。それをいま誰がやれるのか、にらばくがやるしかないのでは—ということだった。

★テント村にかかわつた45日間をいま振り返ると、当初の新聞たてつけのために精根をつくして、よるひるのなかつた20日間ほどの日々や、そのこの「テント村をどのように終るか」の、市、警察、南電のうごきやみなからのひとつひとつの対応と推移の断片なども、(か)つてばくが必死になつて取組んだ、63年の国際平和行進や、86年の「千人集会」やなどと同じように、いまはまるで夢の日記だったように淡々と遠くはなれている。その中でわずかに確かなものとしてあるのは、「テント村しんぶん」のやをひくめとのつきと、フックス通夜のやをひくだけ、とすればすこし食しすぎる。★ということ、本号、次号は、もつぱら誰のため、にでもなく、ばくひとりのためにかくそのといつてよいかもしれない。